

助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人子どもアミーゴ西東京
 代表者・役職名 氏名 代表理事 永井 昌史

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

だがしや楽校

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2005年4月学童クラブ運営研究会発足、2005年8月NPO設立を決定、2006年1月子どもアミーゴ西東京設立、2006年6月特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京(法人格を取得)現在、6つの学童クラブと1館の児童センターを行政から受託して運営中。放課後健全育成事業、子育て支援事業などの諸活動を行い、全ての子どもが持つ権利を保障し、安全安心に暮らせる社会の実現を目指しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

昔ながらの「駄菓子屋」を取り巻く地域ネットワークは子どもにとってもう一つの学校(楽校)であり、社会の入り口。市内の公園を使って、毎年9月に開催する「だがしや楽校」は、学童に通う子どもたちが日頃のあそびを子どものお店(見せ)として出店する。地域の障がい者就労支援団体や都市農家の方々、子育てサークルのなども出店し、地域交流の場となっている。お互いの存在を知り、日々の生活の中で触れ合い分かり合える機会とする。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

学童クラブに通う子ども達と職員・保護者がチームとなり、お店屋さんを出店(商品を売るお店は原価と売価のバランスを考える)。障がい者就労支援の団体のパン・お菓子の出店(交流)。都市農家の直販(地産地消)で顔の見える安全な食材を子どもに提供する機会を作る。地域の老若男女のボランティアによる協力(駐輪場係など)。日頃の学童クラブでの児童の生活様子などのパネル展示など

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果：9月11日開催。来場者800人(昨年度並み)未就学児を連れた親子が多く来場していた。

成果：毎年同じ場所で実施していることから、開催が定着し、市民からの「いつ開催？」など、問合せが入るようになった。子どもに連れられた若い世代の夫婦の来場があり、子どもを介した大人同士の会話、居場所となっていた。社会的変化と効果：劇的に社会にいい影響を与えたとは言い切れないが、子どもたちが自主的にお店を出したり、ペーゴマ大会では出場する30数名の保護者が一緒に応援し、勝負に涙している姿があった。大人がつながり、一時でも熱い思いを共有する体感こそが「孤育て」の防止になるのだと感じる。一足飛びにはいかないが、継続して実施することで、親子のつながりや親同士のつながり、障がいを持つとが、持たないが関係なく、「だがしや楽校」がそれぞれの原風景となっていくのではないかと感じる。子どもたち、中高生年代、大人たち。そこにある笑顔が、また来年もここで会おうと言っていると感じた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

外での事業なので、どうしても天候に左右される。室内で実施可能な場所の確保が課題である。今後の展開として、西東京市内の南エリアで開催しているが、北の方の公園でも開催出来たらと考える。自分たちが主催ではなくても、同じ思いを抱く団体があれば、ぜひ、協働して実施することも可能だと考える。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

特になし